北海道白糠養護学校
# 学校だより
第５号　令和２年　３月２４日発行
発行責任者　　校長　菅原　康之

【お問い合わせ先】
北海道白糠養護学校　学芸部
〒088-0351　白糠町和天別１４７－２
TEL／FAX　　01547-2-5353
代表メール　hakuyou@hokkaido-c.ed.jp
HP http://www.shiranuka-yougo.hokkaido-c.ed.jp/

## I Have a Dream（私には夢がある）

白糠養護学校　校長　菅　原　康　之

令和元年度も終わります。コロナウイルス感染症の対策のため、卒業式、卒業生を送る会、修了式、学年や年度の区切りとなる行事は全て中止になりました。本校での感染者はいません。今は感染者が出ないことを祈るだけです。

私ごとですが、この３月で定年退職となります。この白糠養護学校での３年間は保護者の皆様、学園や関係機関の皆様をはじめ、なんといっても子ども達の明るい笑顔に支えられて、なんとかこの日を迎えることができました。本当にありがとうございました。

退職を前に私が教員生活をとおして大事だと思うことを述べたいと思います。

主に重度重複障がいのある子ども達と出会いが多い教員生活において、私には夢がありました。それは、歩けない子が歩けること、お話ができない子ができること、人との関わりが難しい子が仲良く関わるようになることでした。しかし、脳性麻痺の子は教育ではなく医学の領域なのではないかと思っていました。自閉の子も脳に何らかの障害があると言われましたから、教育がどれほど役に立つのか疑問だったのです。

ところが、東京の研究所で見たのは、寝たきりの子が３年経ったときには背もたれなしで椅子に腰掛けているところでした。平成７年頃のことです。首がすわらない子がちゃんと頭をもたげ上体を支えなしで起こしているのです。しかも月１回２時間程度の学習によってでした。そこにある教材は風船、ティッシュペーパーのビニル袋、電球、チャイム、座布団、椅子、机、畳の部屋、そして木で作った教材等々、日常生活で目にするものばかりです。しかも、訓練や療法ではなく医学でもなく教育でした。どこにも特別なものは在りませんでした。私のそれまでの常識が吹っ飛んだ瞬間でした。

それ以来夢を追いかけて、たくさんの子ども達と出会い、最後の３年間は白糠養護学校の子ども達と学習をしたり活動したりすることができました。日々変化する子どもの行動を目の当たりにし、子どもって本当にすごいなあと思いました。一人一人の行動の組み立て方は違いますが、着実に歩いたり、言葉を使って話したり、友達関係をつくったりしている姿に立ち会うことができ、白糠養護学校に勤めることができて本当によかったと感謝しています。

現職が終わってもこれからも情熱をもって私の夢を実現に向けて取り組んでいきたいと思います。最後に、夢を実現させるために心の支えとしているキング牧師の演説の一部をのせたいと思います。

- 私には夢がある。それは、いつの日か、この国が立ち上がり、『すべての人間は平等に作られているということは、自明の真実であると考える』というこの国の信条を、真の意味で実現させるという夢である。
- 私には夢がある。それは、いつの日か、不正と抑圧の炎熱で焼けつかんばかりのミシシッピ州でさえ、自由と正義のオアシスに変身するという夢である。
- 私には夢がある。それは、いつの日か、ジョージア州の赤土の丘で、かつての奴隷の息子たちとかつての奴隷所有者の息子たちが、兄弟として同じテーブルにつくという夢である。
- 私には夢がある。それは、いつの日か、私の４人の幼い子どもたちが、肌の色によってではなく、人格そのものによって評価される国に住むという夢である。
- 私には夢がある。それは、邪悪な人種差別主義者たちのいる、州権優位や連邦法実施拒否を主張する州知事のいるアラバマ州でさえも、いつの日か、そのアラバマでさえ、黒人の少年少女が白人の少年少女と兄弟姉妹として手をつなげるようになるという夢である。・・・

1963 年８月 28 日　マーティン・ルーサー・キング・ジュニア

うららかに春の訪れが感じられるようになった３月８日（日）、令和元年度北海道白糠養護学校卒業式が行われる予定でしたが、本年度は新型コロナウイルス対策により中止となりました。例年のように体育館にみんなで集まってお祝いすることはかないませんでしたが、校長先生より卒業生に卒業証書が授与されました。

令和という新しい時代を迎えて初めての卒業生一人一人が主役となり、小学部１名、中学部２名の児童生徒が夢と希望を胸に秘め卒業しました。

（教務部：石渡）

## ～退職・転出者紹介～

（　）内は「退職」「任期満了」または「新しい赴任先」です。

菅原　康之　校長（退職）

保護者の皆様、学園の皆様、大変お世話になりました。白糠養護学校の子ども達の成長する姿に励まされながらなんとかこの日までやってこれました。校長として何もできないまま退職になります。これからの皆様のご健康とご繁栄を心からお祈りしております。

加藤　香奈　教諭（北海道函館高等支援学校）

私は生徒のみなさんの毎日一所懸命に勉強と運動をしている姿が大好きでした。今も一人ひとり笑顔が思い出されます。たくさんの笑顔をありがとう。生徒、保護者の皆様をはじめ、白糠で出会えた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

相坂　智紗子　教諭（北海道帯広養護学校）

児童生徒のみなさん、保護者や学園の方々、そして本校職員、みなさまに本当に感謝しています。２年間の白糠での経験は、人生の宝物になりました。子どもたちがこれからも、健やかに成長されますよう心から願っています。ありがとうございました。

安達　美登里　教諭（北海道札幌養護学校）

白糠養護学校に赴任して１２年。月日が経つのは本当に早いなあと感じています。この１２年で小学部、中学部、高等部と全ての学部で働かせていただきました。どの学部でも子どもたちの元気な声や笑顔に力をもらいました。そして、たくさん学ばせていただきました。保護者の皆様、学園職員の皆様には大変お世話になりました。４月からも遠くから、皆様のご活躍をお祈りしております。本当にありがとうございました。

小久保　弥生　専門主任主事（北海道釧路鶴野支援学校）

事務室は児童生徒にとって関わりの少ない場所ですが、輝く笑顔で挨拶や会話をしてくれてとても嬉しかったです。子どもたちががんばり成長していく姿はとても励みになりました。５年間勤務させていただき、皆さまには、大変お世話になりました。ありがとうございました。

角田　大樹　教諭（退職）

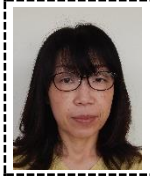
２年間という短い間ではありましたが、大変お世話になりました。子どもとの「今日はこの授業をがんばる！」「昨日はお風呂があって気持ちよかった」等の何気ない会話が私にとっては宝物でした。

白糠養護学校で学んだことを次の場所で生かしていけるようにしていきたいと思います。

ありがとうございました。

佐々木　彩乃　教諭（退職）

２年間という短い間ではありましたが、保護者の皆様、学園職員の皆様には大変お世話になりました。毎日児童生徒の皆さんの笑顔に会うのを楽しみに過ごしていました。また元気な皆さんに会えるのを楽しみにしています。ありがとうございました。



齋藤　真奈美　看護師（退職）

２年間学校での医療的ケアに携わらせて頂きありがとうございました。病院とは違う学校での勤務で慣れないことや、戸惑うことがたくさんありましたが先生や子どもたちに助けられ楽しく過ごすことが出来ました。日々成長していく子どもたちの姿に感動する毎日でした。先生、保護者の方々のご指導によるものと思います。いつかどこかで成長した姿を見られるのを楽しみにしています。ありがとうございました。